



平成 21 年 8 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社デジタルガレージ
 代表者名 代表取締役 CEO 林 郁
 (JASDAQ・コード4819)
 (URL <http://www.garage.co.jp/>)
 問合せ先 取締役 経営管理本部長
 櫻 井 光 太
 TEL 03-5465-7747

平成21年6月期における投資有価証券評価損の発生、連結財務諸表及び個別財務諸表における特別損失の発生に関するお知らせ

投資有価証券のうち、時価あるいは実質価額が著しく下落し、その回復可能性があるとは認められないものにつきましては、平成21年6月期末におきまして減損処理による投資有価証券評価損（特別損失）を計上する必要が生じたのでお知らせいたします。

また、平成21年6月期におきまして、下記のとおり特別損失が発生することとなりましたので、その概要をお知らせいたします。

記

1. 平成21年6月期における投資有価証券評価損

	単体	連結
(A)平成 21 年 6 月期第 4 四半期会計期間（平成 20 年 7 月 1 日から平成 21 年 6 月 30 日まで）の投資有価証券評価損の総額（＝イーロ）	91 百万円	315 百万円
(イ)平成 21 年 6 月期（平成 20 年 7 月 1 日から平成 21 年 6 月 30 日まで）の投資有価証券評価損の総額	233 百万円	928 百万円
(ロ)直前四半期（平成 21 年 6 月期第 3 四半期）累計期間（平成 20 年 7 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで）の投資有価証券評価損の総額	142 百万円	612 百万円

※ 有価証券の評価方法は、洗替え方式を採用しております。

個別財務諸表及び連結財務諸表におきましては、投資有価証券評価損はそれぞれ 92 百万円、787 百万円となっておりますが、これは第 3 四半期累計期間までに投資有価証券評価損を計上したもののうち、第 4 四半期会計期間におきまして売却したことにより、投資有価証券評価損から投資有価

証券売却損益に表示科目を振り替えたものが個別、連結ともに141百万円あるためであります。

○純資産額・経常利益額・当期純利益額に対する割合

	単体	連結
(B) 平成20年6月期末の純資産額	2,750百万円	9,716百万円
(A/B×100)	3.3%	3.3%
(イ/B×100)	8.5%	9.6%
(C) 平成20年6月期の経常利益額	△781百万円	△375百万円
(A/C×100)	—%	—%
(イ/C×100)	—%	—%
(D) 平成20年6月期の当期純利益額	△1,228百万円	△2,430百万円
(A/D×100)	—%	—%
(イ/D×100)	—%	—%

2. 連結財務諸表における特別損失の発生及びその内容

(i) 減損損失

当社連結子会社である株式会社DGモバイル（以下「DGM」といいます）の事業進捗につきましては、運営携帯サイトからの有料コンテンツのダウンロード数が計画より下回るなど、当初計画に未達となっており、DGMが主力市場としております「携帯電子書籍市場」におきましても、拡大見込みの鈍化など、事業展開の見直しが必要となっております。こうした事業環境を鑑み、今後の収益見込みを見直し、DGMに対するのれんを保守的に評価し、減損処理することといたしました。

当該減損処理により、当社の平成21年6月期連結決算において、184百万円の特別損失が発生しております。

(ii) 投資有価証券評価損

上記「1. 平成21年6月期における投資有価証券評価損」に記載のとおり、当第4四半期連結会計期間におきまして投資有価証券評価損315百万円を特別損失として計上することとなりました。

3. 個別財務諸表における特別損失の発生並びにそれらの内容

(i) 投資有価証券評価損

上記「1. 平成21年6月期における投資有価証券評価損」に記載のとおり、当第4四半期会計期間におきまして投資有価証券評価損91百万円を特別損失として計上することとなりました。

(ii) 関係会社株式評価損

上記「2. 連結財務諸表における特別損失の発生及びその内容 (i) 減損損失」に記載の計上に合わせて、当社が保有するDGM株式の減損処理をすることとしました。

当該減損処理により、184百万円の特別損失が発生しております。

4. 業績への影響

平成21年6月期の業績への影響につきましては、本日別途公表しております「平成21年6月期決算短信」をご参照ください。

以上